

海外で学ぶということ

香港での図書館実習を通して

米川 なつみ（社会学部現代文化学科）

1. はじめに

私は、2016年8月22日から9月2日の2週間、香港のミンファ神学院での図書館実習に参加させていただきました。ミンファ神学院内の図書館での実習の他に、規模様々な公共図書館、香港大学をはじめとした他の大学図書館、専門図書館などを訪問し、大変貴重な経験をさせていただきました。自身の経験を通して、これから海外実習に参加される方に伝えたいことを、三つのセクションに分けて書いていきます。

2. 実習を通じて伝えたいこと

1) 実習への心構え—何を学びたいのか、考える—

図書館実習参加の段階まで履修を終えた方の中には、将来を考える時期にいる方もいるかと思います。少なくとも私はその一人であり、司書課程で学ぼうと考えた理由から一度、振り返ってみようと思いました。私の場合は、専攻する社会学の他に、専門的に学問を究めたかったからであり、図書館実習は就職活動が始まる前に参加したいと考え、1年次から司書課程を優先的に履修してきました。結果的に、時間的余裕のある3年生の夏に参加でき、より実習に集中することができたと思います。海外実習を志望した理由は、好奇心と自分の殻を破りたい気持ちがあったからでした。2年次に履修した図書館基礎特論の中で海外の図書館に面白さを感じ、日本を飛び出して実際に学びたい気持ちが高まりました。特に、タイの図書館の方が授業にいらした時、英語で会話ができたと喜びが忘れられず、海外で挑戦したい気持ちが強くなりました。そして、香港での実習を通じて日本の図書館や文化、社会、自分自身を海外から見つめ直したいと思い、実習参加を決めました。

私は、実習に参加するにあたって一番大切なことは、実習に対する気持ちや姿勢だと考えます。なぜなら、2週間の実習に楽しく参加すれば終わり、ではないからです。事前準備も事後指導も全て含めて実習であり、加えて海外の場合は、言語、生活の面でも自分で考え行動する必要があります。また、お忙しい中で実習を受け入れ、協力してくださる方々がいらっしゃいます。そうした方々に支えられ国境を越えて実習に参加できることを、十分に理解した上での態度が求められると思います。実際、海外実習に参加することは、時間的にも、やるべきことの量でも、軽い気持ちでできることではありません。海外なら尚更、金銭面でも負担が大きくなります。ただ単に参加するだけでは旅行と変わらないので、今一度、実習での目的や学びたいことを考える必要もあります。事前準備、現地での作業、その後のまとめ、一連のことをやり通す気持ちは必要不可欠です。

2) 準備～現地での参加姿勢—日本の当たり前は、世界の当たり前ではない—

海外で実習するにあたって、語学力はある程度必要ですが、それよりも自分の国のことを理解し、どんな形であれ伝えられるようにしておく必要があると思います。実習中、図書館に限らず「香港ではこうだけど、日本はどう？」と聞かれる場面が多々ありました。英単語が浮かばないならまだしも、根本的に自分の国のことをわかっていないのは、悔しいし虚しいです。また、英語でプレゼンテーションをする機会が何度もありました。その際にも、日本との比較であったり、自分の大学や学んできたことを紹介したりするので、今までの復習

や、必要なら調べて資料を用意し、自分の言葉で話せるように準備をする必要があります。英語に関しては、書く・読む力より、実践的な聞く・話す力をつけておくことをお勧めします。中国（広東）語は簡単な挨拶程度でも話せると役に立つと思います。

現地では、相手の言っていることが理解できなかったり、言いたいことがうまく言えなかったりする場面もあるかと思っています。それでも、自分から積極的に質問や発言をすることが大事です。文法的に間違っているとか、発音が変だとか、そういったことを気にして相槌を打つだけの態度より、多少変な言い回しでも相手に伝えようという積極的な姿勢の方が大切だと思います。そして、図書館に対する考え方や、図書館学の学問領域、教育制度などはもちろん、日常の些細な習慣に至るまで、日本の当たり前は世界の当たり前ではないと実感する場面が多々あります。香港は食べ物も買い物する場所も充実しており、自由な時間もあるので、実習以外の部分でも新たな発見があるかと思っています。

3) 実習後にすること—帰国がゴールではない—

実習期間を終え帰国して、終わりではありません。なぜなら、実習で学んだことの整理やまとめ、お世話になった方々へのお礼を忘れてはいけないからです。大きなトラブルなく無事に帰ってくることが一番ですが、そこで満足してはいけないと思います。実習後、他の実習生と意見交換をする機会があります。その時に、自分の言葉で実習の成果を説明したり、他の実習生と学びを深め合えたりするよう、実習後の取り組みも大切です。そして、その後どこかで、お世話になった方々や現地で出会った方々と交流する機会があるかもしれません。一時的な関係ではなく、人との繋がりも大切にしてほしいと思います。

3. 最後に

私が最も伝えたかったことは、海外実習に対する気持ち（モチベーション）が何よりも大事だということです。気持ちは行動にも表れますし、実習で得られるものも変わってきます。学生で図書館実習に参加できる機会は、一生に一度です。加えて、海外図書館実習に参加できる機会は、そう簡単にはありません。少しでも海外実習に参加したいと思うのなら、挑戦してみるべきです。頑張れば頑張るだけ必ず自分の糧になりますし、英語を話す練習にもなります。海外で学ぶことで視野も広がりますし、将来どのように生きようか考えるきっかけにもなるかと思っています。私にとって、香港で年齢、性別、国籍に関係なく様々な方々と関わることができたのは一生の宝物ですし、現地の方々の優しさに何度も助けられ、感謝の気持ちでいっぱいです。ぜひ、皆さんにとっても有意義な経験となるよう、周りの方々への感謝を忘れず、実習に参加していただければと思います。